

# 翔陽高校・大津支援学校高等部による木工製品共同製作から学ぶ取組

翔陽高等学校 工業系列（建築）

## 1 はじめに

近隣学校である翔陽高校と大津支援学校との交流は以前から行われてきましたが、その取組は、交流対象に世代差がある交流や実習製品寄贈などの間接的な交流が主でした。この度の取組は、木工を学ぶ同世代の生徒が共同で製品を作るもので、初めての試みとなりました。両校の高校生は、ものづくりの学習を通して社会人へのスキルを育む点で共通しており、到達点に違いはあれども、交流を介することで単一校では学び得ないことを身に付けることができるという考えから、この取組を企画しました。

## 2 活動の流れ

		
<p>①支援学校職員との打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・企画説明</li><li>・支援学校の実習について調査安全、授業形態、保有木工機、可能な加工、得意加工の発見</li><li>・製作物の検討（プレゼンテーション）</li></ul>	<p>②生徒同士の顔合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自己紹介</li><li>・製作物の説明（作業分担など）</li><li>・堅い握手を交わし、士気を高め、友好的関係が生まれる 「共に頑張ろう。良いものを作ろう。」</li></ul>	<p>③支援学校から加工部材納品</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・仕上りの確認</li><li>・丁寧で正確な加工に感銘する</li><li>・支援学校の生徒も誇らしい表情でエールを送る 「あとは託しました。よろしく。」</li></ul>
		
<p>④組立作業とパンフレットラック製作</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・分業で加工した部材を組み立てる（ピッタリと合致）</li><li>・支援学校の仲間のためにも失敗はできないと責任を持って作業に当たる</li></ul>	<p>⑤共同で仕上げ塗装を行う</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・両校入り混じって塗装を行う（笑顔や会話が生まれていた）</li><li>・製品を完成させて終了の挨拶 これからも両校の関係継続を誓う（満足感の笑顔で別れ）</li></ul>	<p>⑥寄贈式</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・共同で大津町役場と社会福祉協議会へ製品を寄贈した（とても喜んでいただけた）</li><li>・フラワースタンド4台</li><li>・パンフレットラック1台</li></ul>

## 3 まとめ

この度の活動を通じて、本校生は大津支援学校生の得意分野を見つけて設計図を描き、作業の分担を考えて、協力して製品を作り上げる喜びや達成感を得ることができた。大津支援学校生も交流時の表情や発言から、任せられた業務を全うした満足感と交流の楽しさ、ものづくりの面白さを改めて感じたようでした。また両校生徒は、相互理解と学びを深め、将来ともに学び合い、支え合う、共生社会の一員であることを自覚することができたと考えます。模擬的ではありますが、「働く＝協力者の存在を意識する」ということを学ぶことができた良い学習となりました。